

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475000731	事業の開始年月日	平成14年12月1日
		指定年月日	平成14年12月1日
法人名	有限会社ワーカーズクラブ		
事業所名	グループホーム秋桜の里		
所在地	(210-0847) 神奈川県川崎市川崎区浅田2-17-20		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成28年4月14日

基本情報リンク先 <http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/pSearch3?Open>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の尊厳を重視し共同生活であっても「個」を大切に、その人らしくあたりまえの生活が日々繰り返されるようにスタッフ全員で支援しています。また、共同生活であるため、ひとりが皆のため、皆が一人のために、スタッフも一緒になって安心して安全で楽しく笑い声の絶えない居心地の好い環境で暮らし続けていただけるよう、ご利用者様同士、スタッフも含め良好な関係を築いていけるよう支援しています。ご家族様と同じ思いで、ご利用者様に寄り添い、時間を共有し、日々の暮らしの中からひとつでも多く楽しみを見つけ思い出を作っていただけるよう思いを受け止めながら生活していただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 湘南リハウスビル4階		
訪問調査日	平成28年2月6日	評価機関 評価決定日	平成28年3月28日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

JR川崎駅東口より臨港バスの富士電機前行きで「浅田2丁目」または、京町循環で「下新田」下車、徒歩2～3分の静かな住宅地の中にあります。軽量鉄骨2階建ての建物で、玄関に入って左側に事務室があり、2階がグループホームになっています。

<優れている点>

利用者の尊厳を重視し「個」を大切に、その人らしい当たり前の自由な暮らしが日々繰り返される様に、職員全員で支援しています。利用者自ら毎日の食材仕入れを近くのスーパーに出かけて購入したり、食後の食器洗いを各自で行ったり、洗濯物が乾いたら自らたたんで収納場所に入れたり、自分の居室は毎朝職員と一緒に清掃をしたりなど、自宅で過ごしていたときと同じ感覚で過ごせるよう、職員はさりげなく見守り、支援しています。自分でできない事や人には、できる利用者が手伝っています。

<工夫点>

利用者が多くの時間を過ごす共用空間はやや狭いようですが、できるだけ家庭的な環境を大切に環境作りを心掛け、掲示物も季節感を取り入れたもの程度に限定、職員も制服ではなく私服にしています。居室の設備面でも、ナースコールやセンサーマットなどは設置せず、ベットやテレビやタンスなど使い慣れた家具を持ち込み、利用者が自宅での生活と変わらない自由な暮らしが続けられるように工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム秋桜の里
ユニット名	1

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	<input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある
	3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	<input type="radio"/> 3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
	<input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	入口に理念を掲示し、地域密着型サービスの意義を職員全体で確認することにより、地域での生活の継続を重視し事業所と地域の関係性を大切にしたい理念を共有し実践につなげている。	基本理念・介護理念の検討。設定時の職員が入れ替わったこともあり、現在の職員で見直しを検討しています。すでに職員から意見が出されています。新しい理念は、利用者や家族にも共感でき、分かりやすいものにしたいと考えています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域活動に参加している。地域のお祭り、町内会の納涼祭、商店街の夜店等に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけ、町内の商店街や、散歩では挨拶を交わしたりしている。	毎年5月の町の祭りでは、事業所が山車の休憩所になっています。100人を超える人々が訪れ、地域の人に認知症の理解を深めて貰える機会になっています。事業所の近くに民生委員の住まいがあり、事業所の運営にも協力を貰っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	お祭りでは、町内会、子供会と関わりを持ち、事業所を山車の休憩所として提供を行い、地域の方に認知症の人の理解を深めて頂けるよう共に時間を過ごし支援の方法等を伝えている。また、認知症が疑われる地域住民の方の相談を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	会議では、事業所からの活動状況の報告を行い、参加メンバーからの質問、意見、要望、助言を受け、双方向での会議となるよう取り組んでいる。	運営推進会議は奇数月に開催し、町内会の婦人部会長、民生委員、地域包括支援センター、区生活保護課ケースワーカーなどの出席があります。平日の開催で、家族の出席を課題としています。参加者からの質問、意見、要望は議事録を作成し職員にも伝えています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	高齢者担当や生活保護課のケースワーカーと密に連絡を行い、生活の様子やニーズを伝え連携を深め利用者様の生活の質を高めるよう努めている。	事業所の経営者は、市の地域密着サービス管理者や実践者研修の講師経験があります。高齢支援担当や生活保護課のケースワーカーとは密接な連絡を行っています。利用者の生活の質を高める対策などのアドバイスを得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全確保や危険防止を優先するケアではなく、利用者様の自由な暮らしの中での見守りを強化している。玄関も鍵をかけず自由に外に出られる環境にしている。外に出られた場合は、さりげなく声を掛け一緒に出掛けるようにしている	外に出たい素振りがあれば、転倒防止など安全確保を理由に止めるのではなく、声を掛け、一緒に出掛けています。親密さと言葉による拘束について境が難しく、常に注意しています。不適切な言葉かけか否かは、自分では気付かないことも多く、職員同士で互いに連携して取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の暮らしの中での不適切な言葉かけ、不適切なケアとは何か？ミーティングで確認を行ったり、自己の対応を振り返り、職員間での意見交換を行うことにより気づきを持ち虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見が必要なケースでは入居相談の時点で高齢者担当に相談を行っている。また、入居時に、日常生活自立支援事業の支援を受けているケースでは成年後見制度の利用に繋げ、進捗状況に合わせ職員に説明を行い理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、重要事項の説明を丁寧に行うと共に、重度化や看取りについての対応方針、事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含めた事業所の対応可能な範囲についての説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々の暮らしの中でご利用者様と個別で話す機会を設け、思いや意見を聞くようにしている。上手に伝えることのできないご利用者様には、日々の言動から汲み取っている。ご家族様には手紙や来所時等、何でも言って頂ける関係づくりに努めている	利用者の思いや意見を聞くため、個別に話す機会を作るよう全員で心掛けています。家族の来訪時には挨拶を欠かさず、家族の反応を大切にしています。毎月の請求書郵送時には管理者から利用者の状況を丁寧に知らせしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	入居相談時の情報と、日々の暮らしの中で、ご利用者様の生の言葉から得られる情報、その情報を通してご家族様から得られる情報、それらを蓄積しながら、ご利用者様の全体像を知ることができるよう努めている。	月1回の職員会議は、夜7時から全員が集まり、意見交換することを大切にしています。管理者が予め、議題を記載した用紙を配り、意見を求めています。管理者に対しても遠慮なく意見を出しやすくする雰囲気を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が管理者を担っており、常に現場で職員と同じ目線で共に考えながら支援を行うことにより個々の能力やモチベーションの把握を行っています。また、職場環境や条件等については個々に意見を聞き出来ることは対応し出来ないときは理由を説明しています		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	新人職員に対しては、期間を設けマンツーマンのOJTの体制をとり、ご利用者様との関わり方、介護方法、記録の書き方等、事業所内での業務について丁寧な指導を行うよう努めている。また、研修案内等を回覧し、1人年1回程度は外部研修に参加できるよう努める		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	一部の職員は地域密着サービスの研修等に参加し受講生同士のネットワークを構築し定期的に交流会等を行っている。管理者は認知症介護指導者として定期的に市内の他指導者と会う機会があるため情報交換等を行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居相談があった時は、必ずご利用者様と面談を行い、心身の状況把握を行い、ご利用者様の思いに寄り添い、職員がご利用者様に受け入れて頂ける関係性を築くよう努めている。また、他ご利用者様との良好な関係作りにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居までの、ご利用者様とご家族様の関係性、今日までの経緯、ご家族様の思い等を、時間をかけて聴き、受け止めながら関係を築くようにしている。また、ニーズを探ることにより入居の必要性を明確にするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居相談時、早急な対応が必要と判断された場合は、行政に相談等行いながら、可能な限り柔軟な対応を行っている。適切な対応のためニーズを明確にし、地域のネットワークを持ち、連携を保ち迅速に対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日々の暮らしの中で、ご利用者様の思いをや、不安、喜びを知り、共感し、理解するよう努めている。支援する側支援される側という立場ではなく、共に生活するという意識でお互いが協働しながら日々楽しく和やかな生活が送れるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の暮らしの中で、可能な限りご家族様に関わっていただけるよう、入居相談時より説明を行っている。日々の暮らしでの気づきや出来事、ご利用者様の思いを細かくご家族様に伝え協力を得ながら一緒に支えていける関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	お盆、お彼岸等、ご家族様に協力を得ながら、お墓参りや、馴染みの方との継続的な交流が出来るように努めている。また、面会等に制限をもうけず、ご本人と部屋でゆっくり話が出来るといった環境創りを心がけています。	友人の来訪が年1～2回あり、事前に家族の了解を得て中に招き入れています。家族が同行して馴染みの場所や人の所に行く利用者も居ます。昨年末には、利用者と職員全員が勢揃いした写真を年賀状に取り込み、家族などに発送して喜ばれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者様同士の関係性に常に目を向け、職員間で情報を共有している。皆で楽しく過ごせるようお茶の時間等を利用してお菓子作りを行ったりしながらご利用者様間の橋渡しを行っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了された場合にもリロケーションダメージを最小限にするため訪問に伺ったり、これまでの生活状況、支援内容等の情報提供を行いきめ細かい連携を心がけている。ご家族様よりの連絡も日々頂いている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々ご利用者様とかかわりを持つなかで、行動や表情、発する言葉等から思いを汲み取り把握するよう努めている。意思疎通が困難なご利用者様は、ご家族様、今まで関わってこられた方と、本人にとって何が最良なのかを一緒に検討している。	管理者の交代を機に、本人と家族からの情報、事業所の記録を含めICF（生活機能・障害・健康の国際分類）情報整理シートを作成しています。この記録を参考に一人ひとりの思いや暮らし方、利用者がやりたいことを把握し、職員間で情報交換しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の情報と、日々の暮らしの中で、ご利用者様の生の言葉から得られる情報、その情報を通してご家族様から得られる情報、それらを蓄積しながら、ご利用者様の全体像を知ることができるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者様一人ひとりの生活リズム、できること、わかることを把握し、日々の暮らしの中で、やりたいことを支援しながら職員間で情報交換を行い全体像の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者様、ご家族様に日々のかかわりの中で、思いや意見を聞きご利用者様の望む生活が可能な限り実現できるよう介護計画に反映させている。また、毎月のミーティングの中で職員間での話し合いを行い、ご家族様とは順次話し合いの機会をもっている。	介護計画は、原則として6カ月ごとに事業所に家族の来訪を得て打合せを行っています。カンファレンスを職員全員で検討、ケアプランを作成し、家族の了解を得ています。家族が来訪できない場合は、見直し案を文書で知らせ、了解を求めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	〇〇様の日という個々のケア記録に、ご利用者様の言葉、暮らしの様子、心身の状態、職員の気づきを記録し勤務開始前に確認を行っているが、記録を活かしきれず実践や介護計画に繋がられていないことがある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご利用者様、ご家族様の状況に応じて、送迎や必要な支援は柔軟に対応を行い、それに伴い職員の勤務人数を増員するなど柔軟な対応に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ご利用者様が安心して地域で暮らし続けられるよう、民生委員と顔なじみの関係を作り、日々の支援や、協力関係を築いている。近隣の商店街では顔なじみの関係ができ日々の中から多くの配慮を頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者様、ご家族様の希望を確認し医療を受けられることを基本とし、現在は協力医療機関の月2回往診を受けています。急な体調不良時等はご家族の付き添いが困難なため医療機関と連携を図り職員付き添いの下、受診を行っています。	入居時に事業所の提携病院に切り替えています。内科は月2回、歯科は週1回の往診があり、処方箋を取りに行くのは事業所で対応しています。その他の外来の通院は、原則家族が対応しています。昨年度より年1回の健康診断は事業所で対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	協力医療機関の医師、看護師と気軽に電話相談、情報交換が出来る関係性が出来ています、常にご利用者の健康状態や状態変化に応じた支援を行えるよう、協力医療機関と24時電話での相談が出来る体制を構築しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医と病状説明を含め話しをする機会を持ち、ご利用者の支援方法等に関する情報提供を行い、ご家族様との回復状況等の情報交換を行いながら、速やかな退院支援に結びつけている。また、入院中もこまめに訪問し、現状把握を行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化に伴う意思確認書を協力医療機関と共に作成し、ご利用者様、ご家族様の意向を踏まえ、主治医、職員が連携をとり、安心して納得した最後を迎えられるように、随時意思確認を行いながら支援に努めている。	入居時または、重度化した場合、利用者および家族などに随時意思確認を行っています。事業所は主治医と連携をとり、利用者・家族の意向を踏まえた看取りの支援が可能なことを確認しています。可能になった場合、24時間体制で協力病院と連携しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時に備えて、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。応急手当から、その後の連絡方法、対応方法等についても全ての職員が対応できるようにしている。また、管理者は近隣に住んでいるため5分以内に駆けつけられる体制になっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	避難訓練、避難経路の確認、初期消火等の訓練を定期的に行い、消防署の協力を得て検証訓練を行っている。地域の協力体制については、町内会でのお願いしたり運営推進会議でお願いしている。ホームから徒歩5分圏内の小学校が避難所となっている。	2階に消火器2本設置しています。年2回の消防避難訓練や夜間想定訓練を実施しています。2階からの避難経路は中階段のみで、実際は窓からの救急はしごの経路になります。備蓄品は食糧、水が確保されています。	食糧・水などは、十分確保されていますが、備蓄品のリスト作成を行い、備品の消費期限前の有効活用を、確実に実行できるよう期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	支援が必用な時は、ご利用者様に意思確認を行い気持ちを大切に考えさげないケアに努めている。ご利用者様、一人ひとりのその人らしい姿を大切にし常に誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	職員は月1回のミーティングで利用者個人の状況を報告し、話し合いをしています。本人の気持ちを大切に、羞恥心・プライドを尊重し、他の人に分からない様な配慮を心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一人ひとりの状態に合わせて、本人が意思決定しやすい言葉かけを行っている。状況に応じて複数の選択肢を提案しご利用者様一人ひとりが意思決定できる場面をつくるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの生活ペースを大切にし、ご利用者様の個に合わせた対応を心がけている。ご利用者様の希望を確認し、相談しながら外出したり等、個別対応に努めている。毎日ではないが職員の勤務人数を増やし柔軟な対応を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	ご利用者様の、個々の生活習慣に合わせて本人の意向に沿ったスタイルを把握して一緒に決めている。また、季節ごとにご家族に確認の上、洋服の購入等の支援も行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事を一日の大切な活動と位置づけ、ご利用者様と一緒に、広告を見て買い物に行き調理、盛り付け、片付け等を行っている。また、定期的に外食会等の行事を行っている。	利用者と一緒に店舗チラシを見てメニューを決め、天候によりほぼ毎日職員と一緒に買い物に行き、料理も一緒に作っています。3ヶ月に1度回転寿司を食べに行ったり、インターコンチネンタルホテルにランチバイキングに行ったりと食事を楽しんでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	主治医の指示により一人ひとりの健康管理、その日の体調等を考慮しながらカロリーの過不足や栄養の偏り、水分不足が起こらないよう、一日を通して必要量が摂取できるよう、記録し職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後洗面所にて口腔ケアを行っていただく。一人ひとりの力に応じた歯磨きの支援を行っている。義歯使用のご利用者様には、就寝前の口腔ケアで義歯を預かり消毒を行っている。協力歯科医療機関の歯科検診を行いました。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を可能な限り支援するよう努めている。排泄の確認表を使い、尿意の無い方も前回の排泄から時間を見計らい随時誘導を行っている。夜間も巡回時だけでなく個々のパターンで随時誘導を行っている。	排泄確認表でパターンを把握し、トイレへ声掛け誘導してトイレでの排泄を支援しています。本人が自分で出来る様になるところまで職員が介助し、安心感を与え、自立を促しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄確認表を活用し、便秘の状態を把握している。起床時の水分補給と食事内容、特に食物繊維の多い食材を使用したメニュー作りを行っている。暮らしの中から身体を動かすことの大切さを常に意識して活動性を高めるよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人一人の希望に沿って入浴していただいている。毎日入りたい方は毎日、入浴が嫌いな方は、職員の言葉かけや対応の工夫を行い入浴していただけるよう支援している。個々の身体状況に応じ福祉用具等を使用し快適な入浴が出来るよう努めています。	入浴は午後から、基本毎日対応しています。入浴の可否や順番は、日々の体調により職員が決めていますが、出来るだけ本人の意思に沿った入浴の支援をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中の活動性を高め、生活リズムを整えるように努めている。夕方からの時間の過ごし方に配慮を行い、夕食後からの一人ひとりの就寝に向けてのリズムが安定するよう居室での過ごし方（温度や明るさ等）を工夫するように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬情報のファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。個別のお薬ケースで管理を行い、服薬時は手渡しを行うか、口腔内に入れ確実に内服されていることを確認している。医療専用のノートを作成し全職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの生活歴を把握し、調理や園芸、裁縫等、力を活かした役割を持って生活ができるよう支援している。遠出の外出や、地域のお祭り等ご利用者様と相談しながら行っている。また、随時嗜好品の買い物などが出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの希望に沿って日々の嗜好品の買い物や、お茶を飲みにお店に出かけたりしている。車いすの方も外出できるよう事前に下見を行い支援に努めている。ご家族や地域の行事等は行えていませんが職員間で検討していきたいと思います。	2人に1人、または、1人に1人の職員が付き添い、1日に何度でも外出可能です。また、庭のプランターに季節の花などが植わって並んでいるので、毎日水やりに行くのを楽しみにしている利用者もいます。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族様の協力、理解を得て少額のお金を持っているご利用者様もいる。ご家族様よりお金を預かり、事業所で管理を行っているご利用者様も外出時にご自身で払って頂いたり、残金を定期的に伝える等の対応をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様や、親戚の方の協力、理解を得て電話をかけたり、かけてきていただいたりしている。日々の暮らしの中での言動で思いを把握し、職員からの声掛けを行うとともに、電話しやすい雰囲気づくりに努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご利用者様が多くの時間を過ごす共用空間はやや狭く感じるが、季節の行事を取り入れた飾りつけを季節ごとに行っている。キッチンも多くのご利用者様が調理に関われるようにし、生活感がある空間になるよう工夫している。	季節の行事を取り入れた飾りつけを行っていますが、自宅で過ごしているように感じられるよう、シンプルな空間作りを心掛けています。ぬり絵や折り紙など利用者個人の作品は、各自の部屋に飾ってあります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロアの一角に死角になるような場所がありソファとテーブルを置き一人で過ごせたり、気の合ったご利用者様同士でお茶を飲んだり、くつろいだりする空間を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れたものがご利用者様にとって一番安心でき、リロケーションダメージも少しは小さくなるのではないかと説明している。ご家族と相談しながらご利用者様が居心地良く過ごせるよう努めている。火気を使用するもの意外は制限はしていません。	エアコンは備え付けてあります。ベットやテレビやタンスなど使い慣れた家具を持ち込み、位牌や気に入りの写真などを飾って居心地よく過ごすことが出来るよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりの身体状況に合わせ、手すりの増設や、浴室の改修等を実施した。ご利用者様のわかる力を活かして生活していただくため、状況に合わせて、ミーティング等で職員間で話し合い安全、安心して日々活動が出来るよう環境の整備に努めている。		

平成27年度

目標達成計画

事業所名 グループホーム秋桜の里

作成日： 平28年4月5日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	事業所の理念はあるが、職員等の入れ替わりにより理念の共有、実践がなされていない。	現在の職員にて理念についての大切さについて共通認識をはかり、職員、利用者、ご家族等に共感でき分かりやすい理念の構築と実践に向けた取り組みを行っていく。	職員と作成した理念 ・地域の一員として生活を送れるよう支援します。 ・楽しく、安心した生活が継続できるよう支援します ・役割や生きがいを持って過ごすことが出来るよう支援します。 ・一人ひとりに寄り添い、共に過ごすことを大切にしますの実現に向け毎月の職員会議にて振り返りを行う	6ヶ月
2	10	面会にこられていないご家族に対し、グループホームの様子が分からず、職員との関係性の構築が出来ていない。	面会等にこられないご家族に対しても日々の様子が分っていただけるような取り組みを行う。また、職員の顔と名前が分かるような取り組みを行う。	毎月の請求書送付時に文章や写真等を同封し、状況の報告を行う。また、定期的に職員紹介や職員の入職や退職の報告などを行い顔と名前が覚えていただけるよう取り組む。	3ヶ月
3	35	食料、水などは十分確保されていますが、備蓄品リスト作成を行い、備蓄品の消費期限前の有効活用を確実に出来るよう期待します。	災害時等に1週間程度の必要備蓄品を常時確保できるようリストの作成と管理を行う担当を決める。	担当を決め、リストの作成を行い、定期的に消費期限の確認や不足分の補充を確実に出来るようにします。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月